岡崎市制 100 周年記念事業
岡崎まちものがたり

最明流碑

岡崎地方に広まっていた稲留流花火の伝承者である加藤小兵は、幸田の仰空信道の得意とした矢（流星）の技術に長じていた。さらに、豊橋の仙賀佐十に師事し、研究を重ね、花火の一派を築いた。地元の古刹である最明寺の名を受け、明治20（1887）年に「最明流」と称した。最明流の特長は独特の緑の閃光と、菊花状に開いた外輪と内輪の2重になる鮮やかな区別にあると言われている。加藤小兵は1890（明治23）年、眼の病気にかかり失明した。その後、弟の鶴次郎が煙火業を継いだが、1897（明治30）年、28歳の若さで病死した。その時、門弟が集まり加藤小兵の業績を讃える碑の建立を計画し、早川龍介（国会議員）に碑文を依頼し、1901（明治34）年に羽角（最明寺）山の中腹に「最明流碑」が建立された。碑文には、加藤小兵の業績が刻まれている。加藤小兵は1920（大正9）年、66歳で生涯を終えた。

加藤小兵に関連する年表を加藤煙火（株）ホームページより抜粋して次に掲げる。

・1854(安政元)年

三河国吹羽良村羽角に初代・加藤小兵生まれる。父を喜十といい、代々庄屋を営む。

・1879(明治12)年

色花火ができるようになる

・1884(明治17)年

火薬取締規則が制定公布される。

・1887 (明治20)年

加藤小兵が最明流を興す。その眼、光を失うも花火は衰えを知らず。最明流の発祥地には現在も石碑が残されている。

[仰空信道（～1826）]

幸田の如意寺の僧である仰空信道は、稲留流の打ち上げ花火に工夫を凝らし一派を編み出し、良光流と号した。信道は隅田川の川開きに花火を送り、三河花火の名声を上げたと言い伝えられている。また座敷花火を考案して、江戸の大名屋敷や料亭に送り玩具花火をも広めた。信道は「流星」に長じており、須美神社の奉納花火に大型の流星を打ち上げ、五十本の傘を開かせたと言われている。信道は 1826 年に没し、墓は如意寺にある。

[仙賀佐十（1852～1902）]

吉田（豊橋）に、仙賀佐十という近代花火の祖といれる人がいる。1864（元治元）年に禁門の変が起き、仙賀は志を立てて京都に行ったが、既に戦いは終わっており、失意の足を長崎へと向けた。そこで花火の研究をして帰郷した。塩素酸カリウムを用い、鮮やかな光を放つ花火をつくりあげた。世に「仙賀流」といわれている。黒色火薬を主体にして、樟脳や鉄粉を混合する「和火」に対して、塩素酸カリウムのような発行剤や金属化合物の色火剤を配合したものを「洋火」という。これら新しい火薬が明治10年代に輸入されるようになり、日本の近代花火が始まった。仙賀は「洋火」を試みた先人であった。塩素酸カリウムが、1879（明治12）年頃に輸入され、高温で燃焼し、花火の鮮光度が高くなった。さらに、硝酸ストロンチウム（赤色）、硝酸バリウム（緑色）、硫酸銅（青色）などの色火剤が輸入されるようになった。

江戸時代以来、硝石（硝酸カリウム）と硫黄、木炭「黒色火薬」で花火をつくってきた花火師にとって、これらは目を見張る薬品であった。かくして多彩な色火を発する花火へと移行して行った。しかし、塩素酸カリウムは、他の酸化薬品と混入すると不安定になり、ちょっとした衝撃や摩擦で爆発する危険があり、花火師たちは命がけの研究を行った。「洋火」の先駆者である仙賀佐十は1890（明治13）年2月11日の「帝国憲法発布記念花火」を東京の不忍池で打ち上げ、その絢爛たる美しさで、見物の人々を魅了した。三河花火の名を全国に高からしめたが、1902（明治35）年に花火の研究中、突然の爆発でこの世を去った。享年50歳であった。

最明流碑 20170124

最明流碑 加藤煙火(株)ホームページより

・最明流碑（表）

最明流碑

中島村　　牧喜九書

三河國は昔より人々花火を好み其技術に熱心なる人多し時に吹羽良村羽角に加藤小兵なる人あり安政元年十一月同村に生る父を喜十といふ農を以て業とし世々庄屋を勤む小兵氏幼より花火を好み家傳の書を讀み大に斯道の妙に入る夫れ花火は一種の戯技に属すると雖も化學上の作用に依り青空に五色の彩煙を散し暗天に金銀の火光を飛す實に雲上燦爛の画圖を描出せる一種の美術と云ふも可ならん此技たる大小尚武の氣風を養ひ觀客をして爽快ならしむる高尚なる遊技なり祭事祝典には欽く可からさる逸興にして歐米諸國にて盛に行する小兵氏此技に長し發明する所尠からの最明流なる一派を起し招魂祭共進會に献納して時計銀盃等乃賞を受く其他各地に於て賞牌賞状を得る数を知らる故を以て其門に入者夥多惜べく明治三十年眼病に罹り失明せらる舍弟鶴次郎氏も亦其技に長け悼哉同卅三年三月八日病て歿す歳廿八門弟集て之か碑を建んと欲し其文を予に乞ふ予頗る火技を好むを以て敢て辞せず即ち選す

明治三十四年三月八日　代議士　早川龍介撰文篆額

・**最明流碑（裏）**

石碑の裏面を次にしめす。縦書きで7段から構成されている。横書きにした詳細を次頁に示す。

村　北条珪峯
弘法大師　世話方中
碧海　正名
幡豆　志籠谷有志
仝　八ッ面有志
仝　下羽角年行事
中原　松田仁三郎
下青野　志賀爲三郎
坂崎　平岩幸吉
福桶　杉浦秀造
國正　小島常次郎
津乃平　内藤種治
松木島　粕谷仁左ヱ門
豊橋　仙河亘十妻
村　北条觀瑞
村　加藤清之
村　加藤伊三郎
村　金子善三郎
村　野田竹次郎
村　大竹豊吉
村　稲吉忠蔵
村　杉浦勘兵衛
村　野田銀蔵
家武有志

有志者
西尾須田　有馬倭蔵
福岡仲町　柴田仲次郎
正名　浅井喜三郎
岡崎傳馬　近藤東四郎
仝　柴田常太郎
仝　大見惣太郎
仝久右ヱ門町　稲垣兵次郎
仝傳馬　天野新七
仝裏町　八田為吉
仝祐金　兒玉清太郎
仝両町　鈴木久吉
知多郡加米屋　久野伊平治
深溝　三浦坂太郎

碧海郡　社中門人
同　定国
同　中村有志
同　合歓木南組
〃上青野　秋葉組有志
〃　神有
〃　二本木
〃　上三ツ木
〃中嶋村　加美連
〃　両堺年若連
〃伏見屋　流作有志
〃　城ヶ入南組
〃　坂左右
〃櫻井村　東町有志
〃　下和田有志
〃坂左右　有志連
〃　鷲塚旭連
〃東端村　南山
〃　中根山
額田郡福岡　西八町有志
高須
雨町連中
本田

〃大草　前田有志
〃深溝　山村有志
幡豆郡　熊味連中
〃　野塲有志
〃　西岡山
〃下永良　三ッ家
〃西口町村　法光寺有志
〃　上町有志
〃　小焼野8連
〃久麻久村　大字戸崎
〃　住崎有志
〃吉田　高川原三有志
〃保定村　富好有志
当所　宮係

門人
岡崎両町　川合半之助
〃中村　大河原久四郎
〃〃　大河原藤次郎
〃〃　天野仙松
〃新早　鶴田末吉
男川村欠　高木半三郎
乙見村小呂　鈴木國三郎

小呂　川村政治
〃　香村仙吉
碧海里村　杉山宗太郎
東加茂六ッ木　鈴木爲吉
幡豆郡野田　河合元次郎
福岡西八町　近藤忠兵衛
〃　青山清次郎
〃封屋　吉田大三郎
〃永井　高橋文作
〃長峯　本田儀左ヱ門
久保田　鈴木新助
会川　尾崎市三郎
合歓木　加藤國三郎
神有　岡部和市
〃　石原善吉
〃　山田伊太郎
中島加美　鋤柄仙吉
〃　太田栄吉
〃境　高野玉吉
〃　牧　伊蔵
〃小園　鵜野茂平
丁田　神谷彦吉
上三ツ木　鈴木常三郎
〃　鈴木勝次郎

千福　杉浦吉太郎　平口　鈴木常市
二本木　小林仁市　坂右左　長嶋彦四郎
中村　近藤勝次郎　同　都築翠吉
〃　岩瀬甚八　同　長島源三郎
〃　渡邊八ッ太郎　同　太田新五郎
近藤忠兵衛　渡辺萬吉　遠州濱名郡市野　清水嘉市
〃　金子壽吉　村　乙部八十松
村　岩瀬文治郎　村　加藤刄之助
村　大竹捨松
村　加藤要助

発起人
岡崎雨町　杉浦兵治
志篭谷　牧野八代吉　福岡封屋　野々山庄太郎
中島　鋤柄倉之助　東端殿町　澤田甚三郎
神有　岡部常吉　當所　稲吉甚七
同　伊藤梅吉　小兵氏弟　加藤覺治郎
合歓木　名倉信太郎
宝飯郡形原一色　桑原初五郎
松ノ木島　渡辺與三吉
長峯　藤江寿一郎
福岡玉川町　清水兼次郎
下永良　鈴木吉造

建碑委員
最明流継續者
加藤長之介

地三河国幡豆郡吹羽良村
大字上羽角字三ノ山

一段目		二段目		三段目		四段目	
・		村	北条珪峯	・		〃大草	前田有志
・		弘法大師	世話方中	社中門人		〃深溝	山村有志
・		碧海	正名	碧海郡	定国	幡豆郡	熊味連中
・		幡豆	志籠谷有志	同	中村有志	〃	野塲有志
・		仝	八ッ面有志	同	合歓木南組	〃	西岡山
・		仝	下羽角年行事	〃上青野	秋葉組有志	〃下永良	三ッ家
・		中原	松田仁三郎	〃	神有	〃西墅町村	法光寺有志
有志者		下青野	志賀爲三郎	〃	二本木	〃	上町有志
西尾須田	有馬倭蔵	坂崎	平岩幸吉	〃	上三ツ木	〃	小焼野∞連
福岡仲町	柴田仲次郎	福桶	杉浦秀造	〃中嶋村	加美連	〃久麻久村	大字戸ヶ崎
正名	浅井喜三郎	國正	小島常次郎	〃	両堺年若連	〃	住崎有志
岡崎傳馬	近藤東四郎	津乃平	内藤種治	〃伏見屋	流作有志	〃吉田	髙川原三有志
仝	柴田常太郎	松木島	粕谷仁左ヱ門	〃	城ヶ入南組	〃保定村	富好有志
仝	大見惣太郎	豊橋	仙河亥十妻	〃	坂左右	当所	宮係
仝久右ヱ門町	稲垣兵次郎	村	北条觀瑞	〃櫻井村	東町有志	・	
仝傳馬	天野新七	村	加藤清之	〃	下和田有志	門人	
仝裏町	八田為吉	村	加藤伊三郎	〃坂左右	有志連	・	
仝祐金	兒玉清太郎	村	金子善三郎	〃	鷲塚旭連	岡崎両町	川合半之助
仝両町	鈴木久吉	村	野田竹次郎	〃東端村	南山	〃中村	大河原久四郎
知多郡加米屋	久野伊平治	村	大竹豊吉	〃	中根山	〃〃	大河原藤次郎
深溝	三浦坂太郎	村	稲吉忠蔵	額田郡福岡	西八町有志	〃〃	天野仙松
・		村	杉浦勘兵衛	〃	高須	〃新甲	鶴田末吉
・		村	野田銀蔵	〃岡崎	雨町連中	男川村欠	高木半三郎
・		・	家武有志	〃大草	本田	乙見村小呂	鈴木國三郎

五段目		六段目		七段目	
小呂	川村政治	千福	杉浦吉太郎	平口	鈴木常市
〃	香村仙吉	二本木	小林仁市	坂右左	長嶋彦四郎
碧海里村	杉山宗太郎	中村	近藤勝次郎	同	都築翠吉
東加茂六ッ木	鈴木爲吉	〃	岩瀬甚八	同	長島源三郎
幡豆郡野田	河合元次郎	〃	渡邊八ッ太郎	同	太田新五郎
福岡西八町	近藤忠兵衛	〃	渡辺萬吉	遠州濱名郡市野	清水嘉市
〃	青山清次郎	村	金子壽吉	村	乙部八十松
〃封屋	吉田大三郎	村	岩瀬文治郎	村	加藤刄之助
〃永井	高橋文作	村	大竹捨松	・	
長峯	本田儀左ヱ門	村	加藤要助	・	
久保田	鈴木新助	・		・	
会川	尾崎市三郎	・		建碑委員	
合歓木	加藤國三郎	・		岡崎雨町	杉浦兵治
神有	岡部和市	発起人		福岡封屋	野々山庄太郎
〃	石原善吉	志篭谷	牧野八代吉	東端殿町	澤田甚三郎
〃	山田伊太郎	中島	鋤柄倉之助	當所	稲吉甚七
中島加美	鋤柄仙吉	神有	岡部常吉	小兵氏弟	加藤覺治郎
〃	太田栄吉	同	伊藤梅吉	・	
〃堺	高野玉吉	合歓木	名倉信太郎	・	
〃	牧　伊蔵	宝飯郡形原一色	桑原初五郎	最明流継續者	
〃小園	鵜野茂平	松ノ木島	渡辺與三吉	加藤長之介	
丁田	神谷彦吉	長峯	藤江寿一郎	・	
上三ツ木	鈴木常三郎	福岡玉川町	清水兼次郎	・	
〃	鈴木勝次郎	下永良	鈴木吉造	・	

本項は加藤煙火（株）ホームページを参照した。